

名古屋市公会堂 ウォールペインティング・プロジェクト 第Ⅱ期

事業レポート

改修中の名古屋市公会堂の工事現場の仮囲いフェンスに絵を描く『ウォールペインティング・プロジェクト』。昨年度は、公会堂の歩みを振り返るイラストをフェンスに貼り付けました。

今年度は同プロジェクト第Ⅱ期として、1960年代後半から公会堂で数多く開催されてきた海外ロックアーティストの公演ポスターやプログラムを拡大し、フェンスに貼り出す企画を立ち上げ、このほど完成しました。

改修工事前の“クローリング企画”のひとつとして、CBCテレビが保存してきたポスター、プログラムなどの特別展を開催してご好評をいただきましたが、今回もCBCテレビにご協力いただき、世界のトップアーティストたちの公演を振り返ります。

『ロックの殿堂』と呼ばれるようになった公会堂の歴史の一面を、この機会にぜひ知っていただきたく、お近くにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

昨年2月から3月にかけて地下の食堂跡で開催した特別展「名古屋市公会堂とロックコンサートの半世紀」。300以上に上るポスター、プログラム、舞台写真、直筆サインなど貴重な資料が並び、多くのロックファンが訪れました。今回はこれらポスター、プログラムの中から特に選りすぐった30点を拡大して掲示します。



前回、イラストを貼ったのは公会堂南面（公園の噴水側）のフェンスでしたが、今回は建物正面に向かって左手（西側）、名大病院に抜ける歩道沿いのフェンスに施工します。施工前は写真のように白いフェンスが長く続いています。

いよいよ貼り出し作業の開始です。先頭にタイトルを置き、開催年の古い順に左から右に並べていきます。ちなみに、タイトルの次は今から46年前、1972年10月5日開催のレッド・ツェッペリンのプログラム表紙です！



順調に施工が進み、あと6~7枚です。日差しの強さが写真でもわかりますが、今年の名古屋は7月中旬からずっと異常高温が続いています。この日も最高気温は38.3度！でした。じっとしていても汗が噴き出します。

完成しました！左端のタイトル側から見たところです。レッド・ツェッペリンの隣にはデヴィッド・ボウイの顔が見えます。全体を見ると、東京では武道館でやるようなメジャーなアーティストが、名古屋では何故か公会堂を好んで使っていることがわかります。





同じく右端から見たところです。一番手前はもっとも最近の公演、改修工事に入る直前の昨年3月末に開催されたイディナ・メンゼルのポスターです。

フェンスが湾曲しているため、端から端まで一枚の写真に収めることができないのが残念ですが、全長45メートルにもわたってポスターやプログラムの絵柄がズラリと並んでいる壮観な雰囲気がおわかりいただけるでしょうか？

ぜひ、実際に足を運んでいただいて、現地でご覧になってください！

